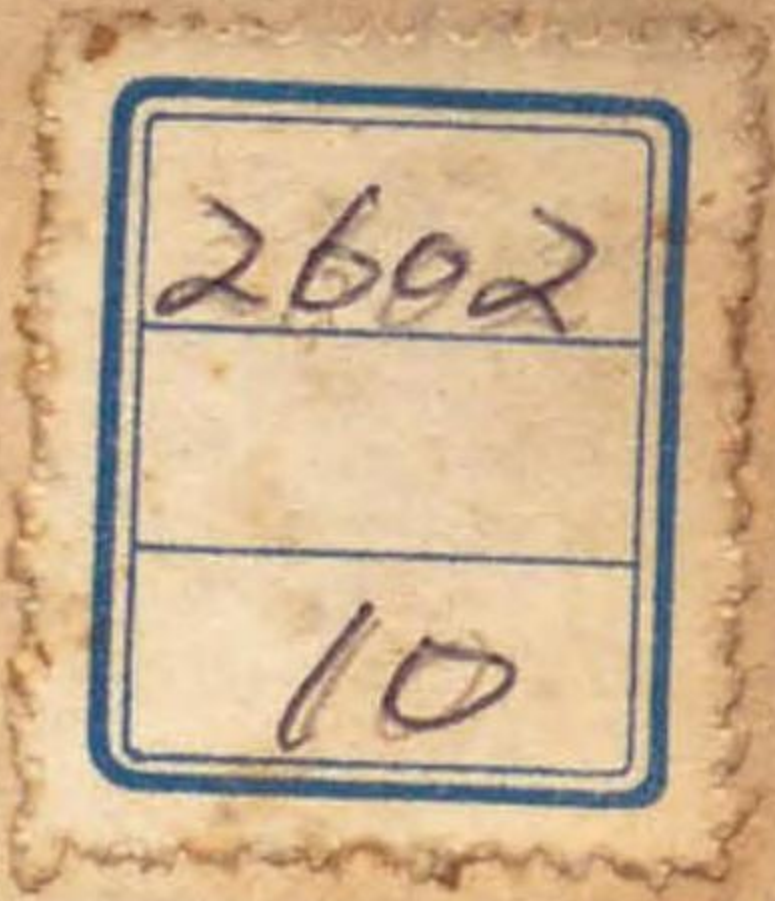


BZ-2-H2

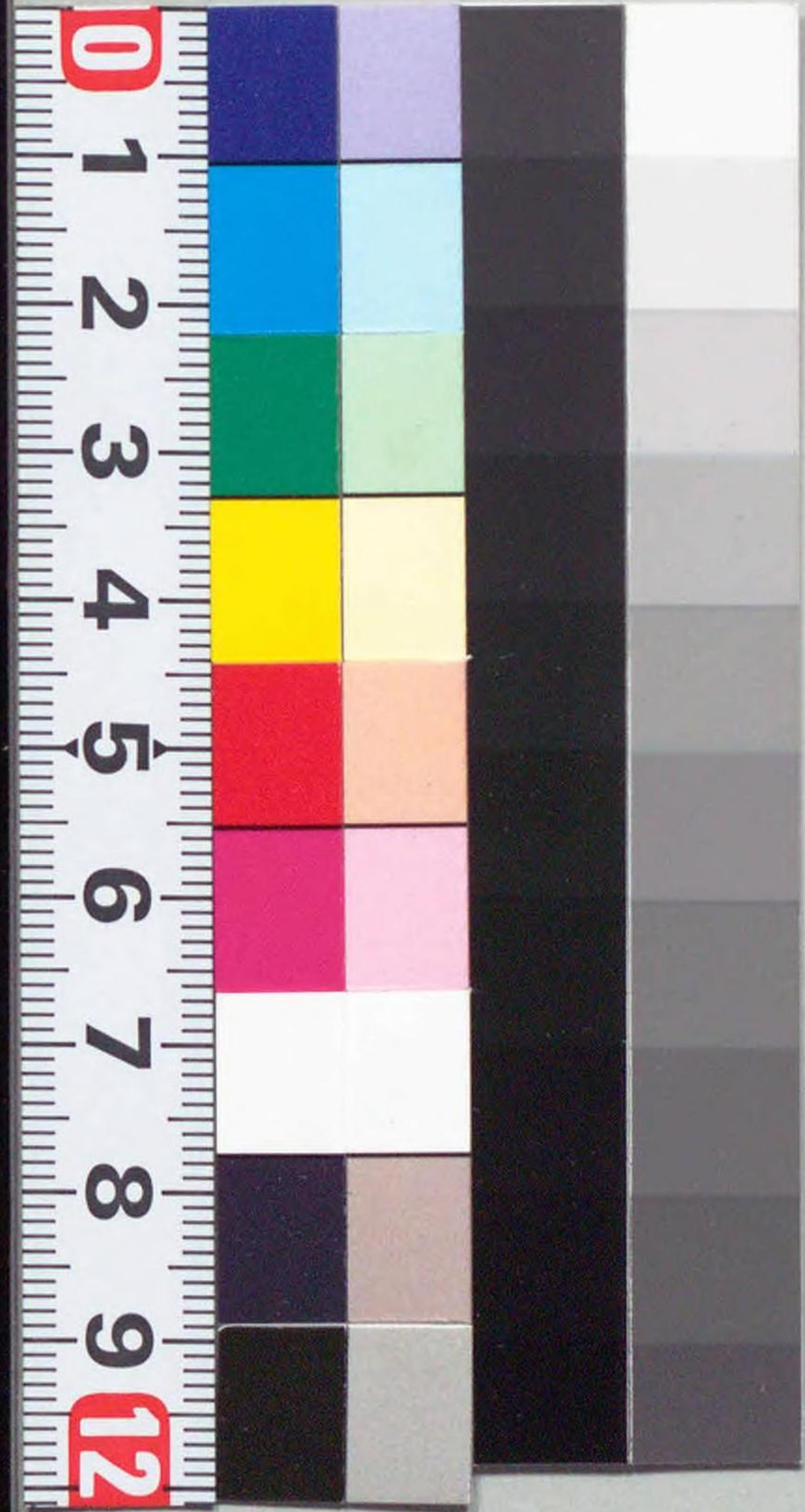
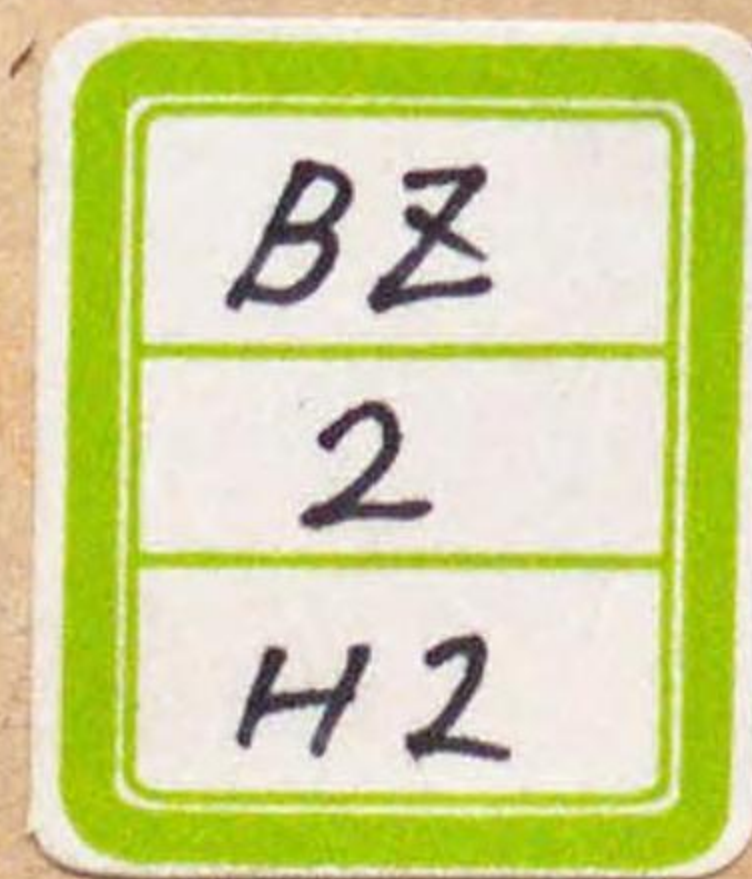


\*1200600099860\*



衆議院法規

昭和二十一年四月



BZ  
2  
H2

凡  
例

一 本書ハ帝國憲法、議院法及衆議院ニ關スル法規ヲ輯録ス  
一 法規ハ昭和二十一年四月十日ノ現在ニ據ル  
昭和二十一年四月

衆議院事務局



I 種  
W



\*1200600099860\*

# 衆議院法規

## 目次

○五箇條ノ御誓文	一
○立憲政體ノ詔書	三
○國會開設ノ勅諭	五
○憲法發布勅語	七
○告文	九
○大日本帝國憲法	一一
○議院法	二五
○衆議院規則	四五
○兩院協議會規程	八七

○兩院協議會規程取扱方ニ關スル件	九一
○帝國議會議長副議長議員歳費及旅費支給規則	九三
○帝國議會各議院議長副議長及議員國有鐵道無賃乘車規則	九七
○衆議院調查會規約、同規約特例	九九
○各派交渉會規程	一〇一

# 衆議院法規

## ○五箇條ノ御誓文(慶應四年三月十四日)

- 一 廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スヘシ
  - 一 上下心ヲニシテ盛ニ經綸ヲ行フヘシ
  - 一 官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マサラシメシ事ヲ要ス
  - 一 舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ
  - 一 智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ
- 我國未曾有ノ變革ヲ爲ントシ 朕躬ヲ以テ衆ニ先ンシ天地神明ニ誓ヒ大ニ斯國是ヲ定メ萬民保全ノ道ヲ立ントス衆亦此旨趣ニ基キ協心努力セヨ

○立憲政體ノ詔書(明治八年四月十四日)

朕即位ノ初首トシテ群臣ヲ會シ五事ヲ以テ神明ニ誓ヒ國是ヲ定メ萬民保全ノ道ヲ求ム幸ニ祖宗ノ靈ト群臣ノ力トニ頼リ以テ今日ノ小康ヲ得タリ顧ニ中興日淺ク内治ノ事當ニ振作更張スヘキ者少シトセス朕今誓文ノ意ヲ擴充シ茲ニ元老院ヲ設ケ以テ立法ノ源ヲ廣メ大審院ヲ置キ以テ審判ノ權ヲ鞏クシ又地方官ヲ召集シ以テ民情ヲ通シ公益ヲ圖リ漸次ニ國家立憲ノ政體ヲ立テ汝衆庶ト俱ニ其慶ニ頼ント欲ス汝衆庶或ハ舊ニ泥ミ故ニ慣ル、コト莫ク又或ハ進ムニ輕ク爲スニ急ナルコト莫ク其レ能朕カ旨ヲ體シテ翼贊スル所アレ

○國會開設ノ勅諭(明治十四年十月十二日)

朕祖宗二千五百有餘年ノ鴻緒ヲ嗣キ、中古紐ヲ解クノ乾綱ヲ振張シ、大政ノ統一ヲ總攬シ、又夙ニ立憲ノ政體ヲ建テ、後世子孫繼クヘキノ業ヲ爲サシムコトヲ期ス、嚮ニ明治八年ニ、元老院ヲ設ケ、十一年ニ、府縣會ヲ開カシム、此レ皆漸次基ヲ創メ、序ニ循テ歩ヲ進ムルノ道ニ由ルニ非サルハ莫シ、爾有衆、亦朕カ心ヲ諒トセン

顧ミルニ、立國ノ體、國各宜キヲ殊ニス、非常ノ事業、實ニ輕舉ニ便ナラス、我祖我宗、照臨シテ上ニ在リ、遺烈ヲ揚ケ、洪模ヲ弘メ、古今ヲ變通シ、斷シテ之ヲ行フ、責朕カ躬ニ在リ、將ニ明治二十三年ヲ期シ、議員ヲ召シ、國會ヲ開キ、以テ朕カ初志ヲ成サントス、今在廷臣僚ニ命シ、假スニ時日ヲ以テシ、經畫ノ責ニ當ラシム、其組織權限ニ至テハ、朕親ラ衷ヲ裁シ、時ニ及テ公布スル所アラントス

朕惟フニ、人心進ムニ偏シテ、時會速ナルヲ競フ、浮言相動カシ、竟ニ大

計ヲ遺ル、是レ宜シク今ニ及テ、謨訓ヲ明徴シ、以テ朝野臣民ニ公示スヘシ、若シ仍ホ故サラニ躁急ヲ争ヒ、事變ヲ煽シ、國安ヲ害スル者アラハ、處スルニ國典ヲ以テスヘシ、特ニ茲ニ言明シ、爾有衆ニ諭ス

六

○憲法發布勅語(明治二十二年二月十一日)

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ現在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス  
惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先ノ協力輔翼ニ倚リ我カ帝國ヲ肇造シ以テ無窮ニ垂レタリ此レ我カ神聖ナル祖宗ノ威徳ト竝ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉ヒ以テ此ノ光輝アル國史ノ成跡ヲ貽シタルナリ朕我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠良ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ其ノ朕カ意ヲ奉體シ朕カ事ヲ獎順シ相與ニ和衷協同シ益々我カ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同クシ此ノ負擔ヲ分ツニ堪フルコトヲ疑ハサルナリ

○告 文

皇朕レ謹ミ畏ミ

皇祖

皇宗ノ神靈ニ誥ケ白サク皇朕レ天壤無窮ノ宏謨ニ循ヒ惟神ノ寶祚ヲ承繼シ  
舊圖ヲ保持シテ敢テ失墜スルコト無シ顧ミルニ世局ノ進運ニ膺リ人文ノ發  
達ニ隨ヒ宜ク

皇祖

皇宗ノ遺訓ヲ明徴ニシ典憲ヲ成立シ條章ヲ昭示シ内ハ以テ子孫ノ率由スル  
所ト爲シ外ハ以テ臣民翼贊ノ道ヲ廣メ永遠ニ遵行セシメ益々國家ノ丕基ヲ  
鞏固ニシ八洲民生ノ慶福ヲ増進スヘシ茲ニ皇室典範及憲法ヲ制定ス惟フニ  
此レ皆

皇祖

皇宗ノ後裔ニ貽シタマヘル統治ノ洪範ヲ紹述スルニ外ナラス而シテ朕カ躬

告 文



ニ逮テ時ト俱ニ舉行スルコトヲ得ルハ洵ニ

皇祖

皇宗及我カ

皇考ノ威靈ニ倚藉スルニ由ラサルハ無シ皇朕レ仰テ

皇祖

皇宗及

皇考ノ神祐ヲ禱リ併セテ朕カ現在及將來ニ臣民ニ率先シ此ノ憲章ヲ履行シテ愆ラサラムコトヲ誓フ庶幾クハ神靈此レヲ鑒ミタマヘ

○大日本帝國憲法

(明治二十三年二月十一日發布)

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ惠撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ康福ヲ増進シ其ノ懿德良能ヲ發達セシメムコトヲ願ヒ又其ノ翼贊ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ乃チ明治十四年十月十二日ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タル者ヲシテ永遠ニ循行スル所ヲ知ラシム

國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將來此ノ憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ愆ラサルヘシ朕ハ我カ臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍内ニ於テ其ノ享有ヲ完全ナラシムヘキコトヲ宣言ス帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此ノ憲法ヲシテ有效ナラシムルノ期トスヘシ

將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ヲ見ルニ至ラハ朕及朕カ繼承ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ  
朕カ在延ノ大臣ハ朕カ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ現在及將來ノ臣民ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ

## 大日本帝國憲法

### 第一章 天皇

第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス  
第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス  
第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス  
第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ

第五條 天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ

第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス

第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス

第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ

由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス

此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ效力ヲ失フコトヲ公布スヘシ

第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各々其ノ條項ニ依ル

第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム

第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス

第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

戒嚴ノ要件及效力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス

第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

第二章 臣民權利義務

第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セ

ラレ及其ノ他ノ公務ニ就クコトヲ得

第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クル

コトナシ

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハ

ルハコトナシ

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住

所ニ侵入セラレ及搜索セラレハコトナシ

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ祕密ヲ侵サル

ハコトナシ

第二十七條 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サルハコトナシ

公益ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限

ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自

由ヲ有ス

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願  
ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大  
權ノ施行ヲ妨クルコトナシ

第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ牴觸セサルモ  
ノニ限り軍人ニ準行ス

第三章 帝國議會

第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタ  
ル議員ヲ以テ組織ス

第三十五條 衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ  
組織ス

第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス

第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス

第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各々法律案ヲ提出  
スルコトヲ得

第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提  
出スルコトヲ得ス

第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各々其ノ意見ヲ政府ニ建  
議スルコトヲ得但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議ス  
ルコトヲ得ス

第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス

第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅命  
ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルヘシ

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ  
臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル

第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フ  
ヘシ

衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラルヘシ

第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ

第四十六條 兩議院ハ各々其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ祕密會ト爲スコトヲ得

第四十九條 兩議院ハ各々天皇ニ上奏スルコトヲ得

第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得

第五十一條 兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ掲クルモノハ外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得

第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ

於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ

第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セラルコトナシ

第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

第四章 國務大臣及樞密顧問

第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス

凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

第五章 司法

第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ  
裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス  
裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラル、コト  
ナシ

懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スル  
ノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムル  
コトヲ得

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定  
ム

第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴  
訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司  
法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス

第六章 會計

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

但シ報償ニ屬スル行政上ノ手數料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス  
國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ  
爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ  
徵收ス

第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ  
豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議  
會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増  
額ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協贊ヲ要セス

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歲出及法律ノ結果ニ由リ又ハ  
法律上政府ノ義務ニ屬スル歲出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除  
シ又ハ削減スルコトヲ得ス

第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協贊ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條 避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條 國家ノ歳出歳入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其ノ検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ  
會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 補則

第七十三條 將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ

此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各々其ノ總員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス  
皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用キタルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵由ノ效力ヲ有ス  
歳出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

○議院法

明治二十二年法律第二號○改正同三十二年第一〇〇號、同三十九年第四九號、大正五年第四〇號、同九年第八號、同十四年第三三號、昭和二年第五三號

第一章 帝國議會ノ召集成立及開會

第一條 帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ

第二條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會スヘシ

第三條 衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各々三名ノ候補者ヲ選舉セシメ其ノ中ヨリ之ヲ勅任スヘシ

議長副議長ノ勅任セラレ、マテハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシ

第四條 各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部部长一名ヲ部員中ニ於テ互選スヘシ

議院法(帝國議會ノ召集成立及開會)



第五條 兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員  
ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フヘシ

第六條 前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ

第二章 議長書記官及經費

第七條 各議院ノ議長副議長ハ各一員トス

第八條 衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第九條 衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ闕位トナリタル

トキハ繼任者ノ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル

第十條 各議院ノ議長ハ其ノ議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ

議院ヲ代表ス

第十一條 議長ハ議會閉會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス

第十二條 議長ハ常任委員會及特別委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得但シ

表決ノ數ニ預カラス

第十三條 各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス

第十四條 各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ選舉シ議  
長ノ職務ヲ行ハシムヘシ

第十五條 各議院ノ議長副議長ハ任期限ニ達スルモ後任者ノ勅任セラレ

ハマテハ仍其ノ職務ヲ繼續スヘシ

第十六條 各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク

書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス

第十七條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名  
ス

書記官ハ議事録及其ノ他ノ文書案ヲ作り事務ヲ掌理ス

書記官ノ外他ノ必要ナル職員中判任官以下ハ書記官長之ヲ任ス(大正五年

法律第四〇號ニ依リ本項改正)

第十八條 兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第三章 議長副議長及議員歳費

第十九條 各議院ノ議長ハ歳費トシテ七千五百圓副議長ハ四千五百圓貴族

議院法(議長書記官及經費、議長副議長及議員歳費)

院ノ被選及勅任議員及衆議院ノ議員ハ三千圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ク但シ召集ニ應セサル者ハ歲費ヲ受クルコトヲ得ス  
(明治三二年法律第一〇〇號及大正九年法律第八號ニ依リ本項改正)

議長副議長及議員ハ歲費ヲ辭スルコトヲ得(明治三二年法律第一〇〇號ニ依リ本項改正)

官吏ニシテ議員タル者ハ歲費ヲ受クルコトヲ得ス

第二十五條ノ場合ニ於テハ第一項歲費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ一日五圓ヨリ多カラサル手當ヲ受ク

第十九條ノ二 各議院ノ議長副議長及議員ハ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ無賃ニテ國有鐵道ニ乗車スルコトヲ得(大正一四年法律第三二號ニ依リ追加)

#### 第四章 委員

第二十條 各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三類トス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲

ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選舉シ一會期中其ノ任ニ在ルモノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ選舉ヲ以テ特ニ付託ヲ受クルモノトス

第二十一條 全院委員長ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於テ之ヲ選舉ス

常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互選ス

第二十二條 全院委員會ハ議院三分ノ一以上常任委員會及特別委員會ハ其ノ委員半數以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聽ヲ禁ス但シ委員會ノ決議ニ由リ議員ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第二十四條 各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第二十五條 各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

#### 第五章 會議

議院法(委員、會議)

第二十六條 各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス

議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスヘシ但シ他ノ議事緊急ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ但シ政府ノ要求若ハ議員十人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條 政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決スルコトヲ得ス但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ二十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第三十條 政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得

第三十一條 凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由

シテ之ヲ奏上スヘシ

但シ兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ第五十四條第二項ノ規定ニ依ル

第三十二條 兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セララルヘモノハ次ノ會期マテニ公布セララルヘシ

#### 第六章 停會閉會

第三十三條 政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スルコトヲ得

議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ

第三十四條 衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタル場合ニ於テハ前條第二項ノ例ニ依ラス

第三十五條 帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ後會ニ繼續セス但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ舉行スヘシ

第七章 秘密會議

三三二

第三十七條 各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ停ムルコトヲ得

一 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ

二 政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

第三十八條 議長又ハ議員十人以上ヨリ秘密會議ヲ發議シタルトキハ議長

ハ直ニ傍聽人ヲ退去セシメ討論ヲ用キスシテ可否ノ決ヲ取ルヘシ

第三十九條 秘密會議ハ刊行スルコトヲ許サス

第八章 豫算案ノ議定

第四十條 政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院

ニ於テ受取りタル日ヨリ二十一日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ

(明治三十九年法律第四九號ニ依リ本項改正)

豫算案カ貴族院ニ移サレタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取りタル

日ヨリ二十一日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ(昭和二年法律第五三號

ニ依リ本項追加)

各議院ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ議決ヲ以テ審査期間ヲ延長ス  
ルコトヲ得但シ其ノ期間ハ通シテ五日ヲ超ユルコトヲ得ス(同上)

第四十一條 豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第九章 國務大臣及政府委員

第四十二條 國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ但シ  
之カ爲ニ議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十三條 議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員  
ハ何時タリトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十四條 委員長ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條 國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會議ニ於テ  
表決ノ數ニ預カラス

第四十六條 常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ  
主任ノ國務大臣及政府委員ニ報知スヘシ

議院法(秘密會議、豫算案ノ議定、國務大臣及政府委員)

三三三

第四十七條 議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及政府委員ニ送付スヘシ

第十章 質問

第四十八條 兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サムトスルトキハ三十人以上ノ贊成者アルヲ要ス

質問ハ簡明ナル主意書ヲ作り贊成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第四十九條 質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辯ヲ爲シ又ハ答辯スヘキ期日ヲ定メ若答辯ヲ爲サ、ルトキハ其ノ理由ヲ示明スヘシ

第五十條 國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ答辯ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議ノ動議ヲ爲スコトヲ得

第十一章 上奏及建議

第五十一條 各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總

代トシ謁見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得

各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ

第五十二條 各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第十二章 兩議院關係

第五十三條 豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レヲ先ニスルモ便宜ニ依ル

第五十四條 甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議院ニ之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ

乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スヘシ

第五十五條 乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ回付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタル

議院法(質問、上奏及建議、兩議院關係)

トキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若之ニ同意セサルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘシ

甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十六條 兩院協議會ハ兩議院ヨリ各々十人以下同數ノ委員ヲ選舉シ會同セシム委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取り又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スヘシ

協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ更ニ修正ノ動議ヲ爲スコトヲ許サス

第五十七條 國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩院協議會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十八條 兩院協議會ハ傍聽ヲ許サス

第五十九條 兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用キ可非同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六十條 兩院協議會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ各々一員ヲ互選シ每會更代シテ席ニ當ラシムヘシ其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 本章ニ定ムル所ノ外兩議院交渉事務ノ規程ハ其ノ協議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第十三章 請願

第六十二條 各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之ヲ受取ルヘシ

第六十三條 請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審議セシム  
請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスト認ムルトキハ議長ハ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ却下スヘシ

第六十四條 請願委員ハ請願文書表ヲ作り其ノ要領ヲ錄シ每週一回議院ニ報告スヘシ

請願委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議員三十人以上ノ要求アルトキハ

各議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付スヘシ

第六十五條 各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得

第六十六條 法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十七條 各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第六十八條 請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用ウヘシ若請願ノ名義ニ依ラス若ハ其ノ體式ニ違フモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十九條 請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用キ政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用キルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第七十條 各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第七十一條 各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ互ニ相干預セス  
第十四章 議院ト人民及官廳地方議會トノ關係  
第七十二條 各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス

第七十三條 各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ得ス

第七十四條 各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトキハ政府ハ祕密ニ涉ルモノヲ除ク外其ノ求ニ應スヘシ

第七十五條 各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向テ照會往復スルコトヲ得ス

第十五章 退職及議員資格ノ異議

第七十六條 衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラレタルトキハ退職者トス

第七十七條 衆議院ノ議員ニシテ選舉法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス

第七十八條 衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

第七十九條 裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ衆議院ニ

於テ同一事件ニ付審査スルコトヲ得ス

第八十條 議員其ノ資格ナキコトヲ證明セラル、ニ至ルマテハ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自身ノ資格審査ニ關ル會議ニ對シテハ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ス

#### 第十六章 請假辭職及補闕

第八十一條 各議院ノ議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ請假ヲ許可スルコトヲ得其ノ一週間ヲ超ユルモノハ議院ニ於テ之ヲ許可ス期限ナキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

第八十二條 各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ届出スシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルコトヲ得ス

第八十三條 衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得

第八十四條 何等ノ事由ニ拘ラス衆議院議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ内務大臣ニ通牒シ補闕選舉ヲ求ムヘシ

#### 第十七章 紀律及警察

第八十五條 各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲内部警察ノ權ハ此ノ法律及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

第八十六條 各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム

第八十七條 會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得

第八十八條 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第八十九條 傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第九十條 議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長

議院法(請假辭職及補闕、紀律及警察)



ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第九十一條 各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ス  
第九十二條 各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用キルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ涉  
リ言論スルコトヲ得ス

第九十三條 議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ  
訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルコトヲ得ス

### 第十八章 懲罰

第九十四條 各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス

第九十五條 各議院ニ於テ懲罰事犯ヲ審査スル爲ニ懲罰委員ヲ設ク

懲罰事犯アルトキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審査セシメ議院ノ議ヲ經  
テ之ヲ宣告ス

各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部長ハ之ヲ議長  
ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

第九十六條 懲罰ハ左ノ如シ

- 一 公開シタル議場ニ於テ譴責ス
- 二 公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム
- 三 一定ノ時間出席ヲ停止ス
- 四 除名

衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第九十七條 衆議院ハ除名ノ議員再選ニ當ル者ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十八條 議員ハ二十人以上ノ贊成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ爲スコトヲ得

懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十九條 議員正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間内ニ  
召集ニ應セサルニ由リ又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ闕席ス  
ルニ由リ若ハ請暇ノ期限ヲ過キタルニ由リ議長ヨリ特ニ招狀ヲ發シ其ノ  
招狀ヲ受ケタル後一週間内ニ仍故ナク出席セサル者ハ貴族院ニ於テハ其  
ノ出席ヲ停止シ上奏シテ勅裁ヲ請フヘク衆議院ニ於テハ之ヲ除名スヘシ

○衆議院規則(大正十四年三月二十四日議決)

第一章 成立

第一條 議員ハ召集ノ詔書ニ指定シタル期日ノ午前九時衆議院ニ集會スヘシ

第二條 集會シタル議員ハ當選證書ト俱ニ名刺ヲ事務局ニ通スヘシ書記官ハ當選人名簿ニ各員ノ當選證書ヲ對照スヘシ

第三條 午前十時ニ至リ集會シタル議員總議員三分ノ一二達シタルトキハ議員ハ議長候補者ノ選舉ヲ行フヘシ

第四條 議長候補者ノ選舉ハ無名投票ヲ以テシ候補者三名ヲ連記スヘシ

第五條 議員ハ點呼ニ應シ議長席ノ前ニ設ケタル投票函ニ投票ヲ投入シ其ノ名刺ヲ名刺函ニ投入スヘシ

現在議員投票ヲ終リタルトキハ書記官長ハ投票函ノ閉鎖ヲ宣告スヘシ閉鎖宣告ノ後ハ投票スルコトヲ許サス

第六條 投票終リタルトキハ書記官長ハ書記官ヲシテ直ニ投票ヲ計算シ之ヲ點檢セシム投票ノ數名刺ノ數ニ超過シタルトキハ更ニ投票ヲ行ハシムヘシ但シ選舉ノ結果ニ異動ヲ及ホササルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條 投票ノ點檢終リタルトキハ書記官長各候補者ノ得點ヲ議員ニ報告シ投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

第八條 投票ノ過半數ヲ得タル者ナキトキ又ハ過半數ヲ得タル者三人ニ滿タサルトキハ最多數ノ投票ヲ得タル者ニ就キ選舉スヘキ定員ノ倍數ヲ取リ決選投票ヲ行ヒ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

同數者二人以上アルトキハ年齡多キ者ヲ取り年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 當選人ニシテ當選ヲ辭スル者アルトキハ更ニ其ノ選舉ヲ行フヘシ

第十條 議長候補者ノ選舉終リタルトキハ副議長候補者ノ選舉ヲ行フヘシ副議長候補者ノ選舉ハ議長候補者選舉ノ例ニ同シ

第十一條 議長候補者ハ副議長候補者ニ選舉セラルルコトヲ得

第十二條 選舉ニ付疑義ヲ生スルトキハ書記官長ハ集會シタル議員ニ諮ヒ之ヲ決スヘシ

第十三條 議長副議長ノ候補者定マリタルトキハ書記官長ハ內閣總理大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ

第十四條 議長副議長任命ノ翌日午前九時議員ハ議場ニ集會スヘシ

書記官長ハ議長及副議長ヲ議院ニ紹介シ議長ヲ導キテ議長席ニ著カシムヘシ

第十五條 議員ノ議席ハ每會期ノ始ニ於テ議長之ヲ定ム但シ必要ト認ムルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

議席ニハ各號數及氏名標ヲ付ス

第十六條 議長ハ議席ヲ指定シタル後書記官ヲシテ抽籤セシメ議員ノ部屬ヲ定ム

第十七條 議員ノ部屬ハ每會期ニ之ヲ定メ各部ニ號數ヲ付ス

總議員ヲ九部ニ配分シ均分スルコト能ハサルトキハ第一部ヨリ以下每部

一員ヲ加フヘシ

議長副議長ハ部員ノ中ニ入ラス

第十八條 臨時會ニ於テハ前會ノ議席及部屬ヲ繼續スヘシ

第十九條 各部ハ年長部員ヲ以テ管理者トシ無名投票ヲ以テ部員中ヨリ部長一名ヲ互選シ其ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

最多數ヲ得タル者同數者二人以上アルトキハ第八條第二項ノ例ニ依ル

第二十條 部長ハ部ノ事務ヲ整理ス

第二十一條 各部ハ部員中ヨリ理事一名ヲ互選ス

理事ノ互選ハ部長互選ノ例ニ同シ

第二十二條 理事ハ部長ヲ輔ケ部長故障アルトキハ之ヲ代理スヘシ

第二十三條 議席及部屬定マリタルトキハ議長ハ議院ノ成立シタルコトヲ

政府及貴族院ニ通知スヘシ

第二十四條 議員一任期ノ第二會期以後ニ於テハ召集ノ期日午前十時ニ至リ議員總數三分ノ一二達シタルトキハ議席及部屬ヲ定メタル後議院ノ成

立シタルコトヲ政府及貴族院ニ通知スヘシ

## 第二章 假議長選舉

第二十五條 假議長ノ選舉ハ無名投票ヲ以テ之ヲ行ヒ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ノ投票ヲ得タル者二人ニ就キ更ニ決選投票ヲ行ヒ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

同數者二人以上アルトキハ第八條第二項ノ例ニ依ル

議院ハ假議長ノ選舉ヲ議長ニ委任スルコトヲ得

第二十六條 假議長ノ選舉ヲ行フ場合ニ於テ議長ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ全院委員長議長ノ職務ヲ行フヘシ但シ全院委員長故障アルトキ又ハ其

ノ選舉未タ施行セラレサルトキハ出席議員中ノ年長者ヲ以テ之ニ充ツ

## 第三章 委員

### 第一節 通則

第二十七條 委員ノ審査ハ議院ノ付託シタル事件ノ外ニ涉ルコトヲ得ス

衆議院規則(假議長選舉、委員)

第二十八條 委員ハ委員會ニ於テ同一事件ニ付幾回タリトモ發言スルコトヲ得

第二十九條 委員長ハ委員會ノ會議ヲ整理シ秩序ヲ保持ス

第三十條 委員會ノ議事ハ出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ委員長ノ決スル所ニ依ル

第三十一條 委員長自ラ討議ニ與カラムトスルトキハ委員中ヨリ代理者ヲ指名シ委員長席ニ著カシムヘシ

第二節 全院委員

第三十二條 全院委員長ノ選舉ハ第二十五條第一項乃至第三項ノ例ニ依ル

第三十三條 全院委員長故障アルトキハ第一部長其ノ職務ヲ行ヒ第一部長亦故障アルトキハ順次ニ第二部長以下之ヲ行フ

第三十四條 全院委員會ハ議長又ハ議員二十人以上ノ發議ニ由リ討論ヲ用キス議院ノ決議ヲ以テ之ヲ開ク

第三十五條 全院委員會ヲ開クコトヲ議決シタルトキハ即時ニ開會スヘシ

即時ニ開會セサルノ議決ヲ爲シタルトキハ議長開會ノ期日ヲ定メ議事日程ニ記載スヘシ

第三十六條 全院委員會ヲ開クトキハ議長其ノ席ヲ退クヘシ

委員長ノ席ハ書記官長ノ席ヲ以テ之ヲ充ツ

第三十七條 全院委員會ニ於ケル動議ハ一人以上ノ贊成者ヲ待チテ議題ト爲スヘシ

第三十八條 全院委員會ハ自ラ其ノ規則ヲ議決スルコトヲ得ス

第三十九條 全院委員會議事ヲ終ルトキハ委員長ハ議長ノ復席ヲ求メ其ノ結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第四十條 全院委員會ハ自ラ延會スルコトヲ得ス若議事終局セサルトキハ委員長ハ議長ノ復席ヲ求メ議事ノ經過ヲ議院ニ報告スヘシ

此ノ場合ニ於テハ議長ハ更ニ開會ノ期日ヲ定メ議事日程ニ記載スヘシ

第四十一條 全院委員會ニ於テ議院法若ハ議院規則ニ違ヒ議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ議長ハ委員長ノ請求ヲ待タス其ノ席ニ復シ委員會ヲ解ク

コトヲ得

第四十二條 全院委員會ノ議決スルコトヲ得サル事件生スルトキハ委員長ハ議長ノ復席ヲ求メ其ノ席ヲ退クヘシ

第四十三條 全院委員會ニ於テハ書記官書記官長ノ職務ヲ行フ

第三節 常任委員

第四十四條 議院ハ每會期ノ始ニ於テ左ニ列記スル常任委員ヲ選舉ス

- 一 豫算委員 六十三人
- 二 決算委員 四十五人
- 三 請願委員 四十五人
- 四 懲罰委員 二十七人

其ノ他議院ニ於テ必要ト認ムルモノ

第四十五條 常任委員ハ各部ニ於テ無名投票ヲ以テ總議員中ヨリ選舉シ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス同數者二人以上アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

各常任委員ノ選舉ハ議院ノ命スル所ニ依リ各部同時ニ之ヲ行フヘシ

第四十六條 各部ニ於テ當選人定マリタルトキハ部長ハ之ヲ議長ニ報告スヘシ

第四十七條 數部ノ選舉ニ當選シタル者ハ其ノ所屬部ノ當選人トス所屬部ノ外ニ於テ數部ノ選舉ニ當選シタル者ハ部號ノ順序ニ從ヒ其ノ當選人トス

第四十八條 前條又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ其ノ選舉シタル部ニ於テ補闕選舉ヲ行フヘシ

第四十九條 委員ニ選舉セラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ任ヲ辭スルコトヲ得ス

第五十條 委員長ハ無名投票ヲ以テ互選シ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

同數者二人以上アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條 委員會ニ一名又ハ數名ノ理事ヲ置ク理事ハ無名投票ヲ以テ委員中ヨリ之ヲ互選ス

委員長故障アルトキハ理事其ノ職務ヲ代理ス

第五十二條 議院ニ於テ委員會ノ期日ヲ指定セサルトキハ委員長之ヲ定ム

第五十三條 委員會ハ議院ノ會議時間ニ於テ之ヲ開クコトヲ得ス但シ議院ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十四條 委員會ハ其ノ付託ヲ受ケタル事件ニ關シ意見ヲ有スル議員アルトキハ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

第五十五條 委員會議錄及其ノ他參考文書ノ閱覽ヲ求ムル議員アルトキハ委員會ハ審査ノ障碍ヲ生セサル限之ヲ許スヘシ但シ議院ノ外ニ携帯スルコトヲ許サス

第五十六條 委員會ノ審査終ルトキハ報告書ヲ作り委員長ヨリ議長ニ提出スヘシ

委員會ノ決議ニ依リ委員長ハ口述ヲ以テ報告スルコトヲ得但シ議院ハ文書ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

委員長ハ委員會ノ決議ヲ經テ其ノ報告ヲ他ノ委員ニ依託スルコトヲ得議長ニ於テ特ニ祕密ト認ムルモノノ外委員會ノ報告書ハ印刷シテ豫メ之ヲ議員ニ配付スヘシ

第五十七條 議院ハ期限ヲ定メ委員會ヲシテ審査ノ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十八條 委員會故ナク其ノ報告ヲ遅延スルトキハ議院ハ改メテ他ノ委員ヲ選任スルコトヲ得

第五十九條 委員會ニ於テ少數ヲ以テ廢棄セラレタル意見ヲ議院ニ提出セムトスル者出席委員三分ノ一ニ及フトキハ委員會ノ報告ト俱ニ其ノ意見書ヲ提出スルコトヲ得

第六十條 委員會ハ委員會議錄ヲ作り出席者ノ氏名表決ノ數決議ノ要領其ノ他重要ノ事件ヲ記載スヘシ

第六十一條 委員會議錄ハ委員長及理事之ニ署名シ事務局ニ保存スヘシ

第六十二條 豫算委員決算委員及請願委員ハ其ノ事務ヲ捷速ナラシムル爲

分テ數科ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ各科ニ主査ヲ互選スヘシ  
各科主査ハ議院ニ於テ委員長ノ報告ヲ補足スルコトヲ得

第四節 特別委員

第六十三條 特別委員ノ數ハ九名トス但シ付託事件ノ種類ニ由リ議院ノ決  
議ヲ以テ之ヲ増加スルコトヲ得

第六十四條 特別委員ハ議院ニ於テ無名投票ヲ以テ連記選舉シ最多數ヲ得  
タル者ヲ當選人トス同數者二人以上アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム  
議院ハ特別委員ノ選舉ヲ議長ニ委任スルコトヲ得

第六十五條 特別委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ其ノ選舉シタル方法ニ依リ  
補闕選舉ヲ行フヘシ

第六十六條 議院ハ特別委員ニ付託シタル事件ニ連繫スル他ノ事件ヲ併セ  
テ之ニ付託スルコトヲ得

第六十七條 議院ハ特別委員ノ報告ヲ受ケタル後更ニ其ノ事件ヲ同一委員  
ニ付託シ又ハ他ノ委員ニ付託スルコトヲ得

第六十八條 第四十九條ヨリ第六十一條ニ至ル迄ノ規定ハ本節ニ適用ス

第四章 議員資格審査

第六十九條 議員他ノ議員ノ資格ニ對シ異議アルトキハ異議申立書及其ノ  
副本ヲ作り署名シテ之ヲ議長ニ差出スヘシ

議長ハ異議申立書ヲ資格審査委員ニ付シ及其ノ副本ヲ被申立議員ニ送達  
シ期日ヲ定メ答辯書ヲ差出サシムヘシ

被申立議員天災事變又ハ疾病ニ因リ期間内ニ答辯書ヲ差出スコト能ハサ  
リシコトヲ證明スルトキハ議長ハ更ニ期日ヲ定メ答辯書ヲ差出サシムル  
コトヲ得

第七十條 議長被申立議員ノ答辯書ヲ受取リタルトキハ資格審査委員ニ付  
シ時日ヲ期シテ之ヲ審査セシムヘシ

第七十一條 被申立議員期間内ニ答辯書ヲ差出ササルトキハ資格審査委員  
ハ直ニ審査ノ結果ヲ報告スルコトヲ得

第七十二條 資格審査委員ハ必要ト認ムルトキハ議長ヲ經由シテ異議申立



議員及被申立議員ヲ召喚訊問スルコトヲ得

第七十三條 委員其ノ審査報告ヲ議長ニ提出シタルトキハ議長之ヲ各議員ニ配付シタル後院議ニ付スヘシ

第七十四條 被申立議員ハ自ラ議院ニ辯明シ又ハ他ノ議員ヲシテ代リテ辯明セシムルコトヲ得

第五章 開議散會及延會

第七十五條 會議ハ午後一時ニ始ム但シ議長必要ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十六條 議事日程ニ掲ケタル議事ヲ終リタルトキハ議長ハ散會ヲ宣告ス

議事未タ終ラサルモ午後六時ニ至ルトキハ議長ハ議院ニ諮ハスシテ延會ヲ宣告スルコトヲ得但シ緊急ノ議事ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七十七條 議事開始ノ時刻ニ至ルトキハ議長其ノ席ニ著キ諸般ノ事項ヲ報告シテ後ニ會議ヲ開クコトヲ宣告ス

議長會議ヲ宣告セサル間ハ何人モ議事ニ付發言スルコトヲ得ス

第七十八條 出席議員若定數ニ充タサルトキハ議長ハ相當ノ時間ヲ經テ之ヲ計算セシム計算二回ニ至リ仍定數ニ充タサルトキハ延會ヲ宣告スヘシ

第七十九條 議長散會延會又ハ中止ヲ宣告シタル後ハ何人モ議事ニ付發言スルコトヲ得ス

第六章 議事日程

第八十條 議長ハ會議ノ終ニ於テ次會ノ議事日程ヲ議院ニ報告スヘシ

第八十一條 凡テ議院ノ會議ニ付スヘキ事件及次序竝開議ノ日時ハ之ヲ議事日程ニ記載スヘシ

第八十二條 議事日程ハ官報ニ掲載シ及議員ニ配付スヘシ

第八十三條 議事日程ニ某議案ノ會議時刻ヲ定メタル場合ニ於テ其ノ時刻ニ至リタルトキハ議長ハ會議中ノ議事ヲ中止シテ時刻ヲ定メタル事件ノ會議ニ移ルヘシ

第八十四條 議事日程ニ記載シタル事件アルニ拘ラス他ノ緊急事件ニ付開議ノ動議ヲ起ス者アルトキ又ハ議長自ラ緊急事件ト認ムルトキハ討論ヲ用キスシテ議院ニ諮ヒ議事日程ヲ變更スルコトヲ得

第八十五條 議事日程ニ指定シタル日ニ於テ其ノ記載事件ノ會議ヲ開クコト能ハサルトキ又ハ會議終局ニ至ラサルトキハ議長ハ更ニ其ノ日程ヲ定ムヘシ

第八十六條 貴族院ニ於テ既ニ會議ニ付シタル議案ト同一ナル事件ヲ議事日程ニ記載スルコトヲ得ス但シ兩議院ノ議決ヲ要セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八十七條 貴族院ヨリ提出シタル議案ハ政府ヨリ提出シタル議案ニ次キ議事日程ニ記載スヘシ

第七章 議事

第一節 發議、動議及撤回

第八十八條 議員法律案又ハ上奏案建議案ヲ發議セムトスルトキハ其ノ案

ヲ具ヘ理由ヲ附シ定規ノ贊成者ト共ニ連署シテ議長ニ提出シ議長ハ之ヲ印刷シテ各議員ニ配付スヘシ

第八十九條 決議ノ動議ハ二十人以上ノ贊成者ヲ待チテ議題ト爲スヘシ

第九十條 議院法及此ノ規則ニ於テ特ニ規定シタル場合ヲ除クノ外凡ソ動議ハ一人以上ノ贊成者ヲ待チテ議題ト爲スヘシ

第九十一條 議員ノ發議ニ係ル議案及動議ノ撤回ハ發議者全部ヨリ之ヲ請求スヘシ

前項ノ議案及動議ノ撤回ハ議題ト爲リタル後ハ議院ノ許可ヲ經ルコトヲ要ス

第二節 讀會

第九十二條 第一讀會ハ議案ヲ各議員ニ配付シタル後少クトモ二日ヲ隔テ之ヲ開クヘシ但シ緊急事件ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九十三條 第一讀會ニ於テ議案ヲ朗讀シタル後國務大臣政府委員又ハ發議者ハ其ノ趣旨ヲ辯明スルコトヲ得

議員ハ議案ニ對シ疑義アルトキハ國務大臣政府委員又ハ發議者ニ説明ヲ求ムルコトヲ得

議長ハ便宜議案ノ朗讀ヲ省略セシムルコトヲ得

第九十四條 前條ノ手續ヲ終リタルトキハ政府又ハ貴族院ヨリ提出シタル

議案ハ之ヲ委員ニ付託スヘシ

議院ハ委員ノ報告ヲ待チ大體ニ付討論シタル後第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヲ決スヘシ

議員ヨリ提出シタル議案ハ大體ニ付討論シタル後第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヲ決スヘシ若委員ニ付託スルク動議アリテ之ヲ可決シタルトキハ其ノ報告ヲ待チ第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヲ決スヘシ

第二讀會ヲ開クヘカラスト決シタルトキハ其ノ議案ヲ廢棄シタルモノトス

第九十五條 第二讀會ハ第一讀會ヲ終リタル後少クトモ二日ヲ隔テ之ヲ開クヘシ但シ議長ハ議院ニ諮ヒ時日ヲ短縮シ又ハ第一讀會ト同日ニ之ヲ開

クコトヲ得

第九十六條 第二讀會ニ於テハ議案ヲ逐條朗讀シテ之ヲ議決スヘシ

議長ハ便宜議案ノ朗讀ヲ省略セシムルコトヲ得

第九十七條 第二讀會ニ於テハ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ提出スルコトヲ得 議員ハ讀會ノ前豫メ修正案ヲ議長ニ提出スルコトヲ得

第九十八條 委員ノ報告ニ係ル修正ハ贊成ヲ待タスシテ議題ト爲スヘシ

第九十九條 議長ハ逐條審議ノ順序ヲ變更シ又ハ數條ヲ連ネ又ハ一條ヲ分割シテ討論ニ付スルコトヲ得但シ議員ヨリ異議ヲ申立テ三十人以上ノ贊成者アルトキハ討論ヲ用キスシテ之ヲ決スヘシ

第一百條 第二讀會ノ終リニ於テ議院ハ修正決議ノ條項及字句ノ整理ヲ委員ニ付託シ又ハ議長ニ依託スルコトヲ得

第一百一條 第三讀會ハ第二讀會ノ後少クトモ二日ヲ隔テ之ヲ開クヘシ但シ議長ハ議院ニ諮ヒ時日ヲ短縮シ又ハ第二讀會ト同日ニ之ヲ開クコトヲ得

第一百二條 第三讀會ニ於テハ議案全體ノ可否ヲ議決スヘシ

第三百三條 第三讀會ニ於テハ文字ヲ更正スルノ外修正ノ動議ヲ爲スコトヲ得ス但シ議案中互ニ牴觸スル事項又ハ現行法律ト牴觸スル事項アルコトヲ發見シタルトキ必要ノ修正ヲ動議スルハ此ノ限ニ在ラス

第三節 討論

第四百四條 議事日程ニ記載シタル議題ニ對シ發言セムト欲スル者ハ會議開始前豫メ其ノ氏名及反對又ハ贊成ノ旨ヲ記シテ書記官ニ通告スルコトヲ得

第四百五條 書記官ハ前條通告ノ順序ニ由リ之ヲ發言表ニ記入シ議長ニ報告スヘシ議長ハ討論ヲ始ムルニ當リ發言表ニ依リ反對者ヲシテ最初ニ發言セシメ次ニ贊成者及反對者ヲ可成交互ニ指名シテ發言セシムヘシ前項ノ指名ニ應セサル者ハ通告ノ效ヲ失フ

第四百六條 通告ヲ爲ササル議員ハ通告ヲ爲シタル議員總テ發言ヲ終リタル後ニ非サレハ發言ヲ求ムルコトヲ得ス

通告ヲ爲シタル甲方ノ議員未タ發言ヲ終ラスト雖乙方ノ議員既ニ發言ヲ

終リタルトキハ通告ヲ爲ササル乙方ノ議員發言ヲ求ムルコトヲ得

第四百七條 通告ヲ爲サスシテ發言セムト欲スル者ハ起立シテ議長ト呼ビ自己ノ氏名ヲ告ケ議長ノ許可ヲ得テ發言スヘシ

第四百八條 二人以上起立シテ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ先起立者ト認ムル者ヲ指名シテ發言セシム

第四百九條 延會又ハ議事中止ノトキ發言ヲ終ラサル議員ハ更ニ其ノ議事ヲ始ムルトキニ於テ前ノ發言ヲ繼續スルコトヲ得

第五百十條 凡テ發言ハ演壇ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ極メテ簡單ナル發言及特ニ議長ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五百十一條 議長ハ何時ニテモ議席ニ於テ發言スル議員ヲシテ演壇ニ登ラシムルコトヲ得

第五百十二條 討論ハ議題外ニ涉ルコトヲ得ス

第五百十三條 議員ハ同一ノ議題ニ付發言二回ニ及フコトヲ得ス但シ質疑應答ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 委員長又ハ報告者ハ其ノ報告ノ趣旨ヲ辯明スル爲ニ數回ノ發言ヲ爲スコトヲ得

國務大臣政府委員發議者及動議者ハ議案又ハ發議動議ノ趣旨ヲ辯明スル爲ニ數回ノ發言ヲ爲スコトヲ得

第十五條 資格ニ付異議ヲ申立ラレタル議員又ハ懲罰事犯アリト告ケラレタル議員ハ辯明ノ爲ニ數回ノ發言ヲ爲スコトヲ得

第十六條 會議ニ於テ意見書又ハ理由書ヲ朗讀スルコトヲ得ス但シ引證若ハ報告ノ爲ニ簡單ナル文書ヲ朗讀スルハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 議長自ラ討論ニ與カラムトスルトキハ豫メ之ヲ通告シ議席ニ著キ副議長ヲシテ議長席ニ著カシムヘシ

第十八條 議長討論ニ與カリタルトキハ其ノ問題ノ表決ヲ終ル迄議長席ニ復スルコトヲ得ス

第十九條 議長ハ討論ノ終局ヲ宣告ス

第二十條 發言者未タ盡キスト雖議員討論終局ノ動議ヲ提出シ二十人以

上ヲ贊成アルトキハ議長ハ議院ニ諮ヒ討論ヲ用キスシテ之ヲ決スヘシ

第二十一條 討論終局シタルトキハ質疑ハ之ヲ許サス

質疑ヲ終局セムトスルトキハ前條ノ例ニ依ル

第四節 修正

第二十二條 議案ニ對スル修正ノ動議ハ其ノ案ヲ具ヘ議長ニ提出スヘシ

第二十三條 議員ノ提出シタル修正案ハ委員會ノ提出シタル修正案ニ先チテ決ヲ採ルヘシ

第二十四條 同一ノ議題ニ付數箇ノ修正案提出セラレタル場合ニ於テハ

議長ハ表決ノ順序ヲ定ム其ノ順序ハ原案ニ最遠キモノヨリ先ニス若議員異議ヲ申立テ三十人以上ノ贊成アルトキハ議長ハ討論ヲ用キスシテ議院

ニ諮ヒ之ヲ決スヘシ

第二十五條 既ニ成立シタル修正ノ動議ハ議院ノ許可ヲ經ルニ非サレハ之ヲ撤回スルコトヲ得ス

一議員ノ撤回シタル動議ハ他ノ議員定規ノ贊成者ト共ニ之ヲ繼續スルコ

トヲ得

第二百二十六條 修正案總テ否決セラレタルトキハ原案ニ就テ決ヲ採ルヘシ  
第二百二十七條 修正案原案共ニ過半數ノ贊成ヲ得サル場合ニ當リ議院ニ於  
テ廢棄スヘカラサルモノト議決スルトキハ特ニ委員ヲシテ其ノ案ヲ起サ  
シメ會議ニ付スルコトヲ得

第五節 表決

第二百二十八條 表決ノ際議場ニ現在セサル議員ハ表決ニ加ハルコトヲ得ス  
第二百二十九條 議長表決ヲ採ラムトスルトキハ表決ニ付スヘキ問題ヲ議院  
ニ宣告スヘシ

議長問題ヲ宣告シタル後ハ何人モ議題ニ付發言スルコトヲ得ス

第三百十條 議長表決ヲ採ラムトスルトキハ問題ヲ可トスル者ヲ起立セシ  
メ起立者ノ多少ヲ認定シ可否ノ結果ヲ宣告スヘシ若認定シ難キトキ又ハ  
議員議長ノ宣告ニ對シ異議ヲ申立テ三十人以上ノ贊成アルトキハ議長ハ  
記名投票ヲ以テ表決ヲ爲サシムヘシ

第三百十一條 議長必要ト認ムルトキ又ハ議員三十人以上ノ要求アルトキ  
ハ起立ノ方法ヲ用キスシテ記名若ハ無名投票ヲ以テ表決ヲ爲サシムヘシ

第三百十二條 記名投票ヲ行フ場合ニ於テハ問題ヲ可トスル議員ハ白票ニ  
問題ヲ否トスル議員ハ青票ニ各其ノ氏名ヲ記シ投票函ニ投入スヘシ

第三百十三條 無名投票ヲ行フ場合ニ於テハ問題ヲ可トスル議員ハ白球ヲ  
問題ヲ否トスル議員ハ黒球ヲ投票函ニ投入シ同時ニ其ノ名刺ヲ名刺函ニ  
投入スヘシ若球數カ名刺ノ數ニ超過シタルトキハ再投票ヲ行フ但シ可否  
ノ結果ニ異動ヲ及ホササルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三百十四條 記名又ハ無名投票ヲ行フトキハ議場ノ入口ヲ閉鎖スヘシ

第三百十五條 總テ投票ヲ終リタルトキハ議長ハ其ノ結果ヲ宣告スヘシ

第三百十六條 議員ハ自己表決ノ更正ヲ求ムルコトヲ得ス

第六節 豫算會議

第三百十七條 豫算委員豫算案ヲ數部ニ分割シタルトキハ每部ノ審査終ル  
ニ從ヒ會議ヲ開クコトヲ得

豫算各部ノ議事ヲ終リタルトキハ總額ニ付確定ノ議決ヲ爲スヘシ

第三百二十八條 豫算ノ會議ニ於テ更ニ審査ヲ必要トスル事項ヲ發見シタルトキハ其ノ事項ヲ限リ再ヒ豫算委員ニ付託シ之ヲ審査セシムルコトヲ得

第八章 議事録及速記録

第一節 議事録

第三百二十九條 議事録ハ左ノ事項ヲ記載ス

- 一 議院成立及開會閉會停會ニ關スル事項及其ノ年月日時
- 二 開議延會中止及散會ノ月日時
- 三 出席國務大臣及政府委員ノ氏名
- 四 勅語及勅旨
- 五 議長及委員長ノ報告
- 六 會議ニ付シタル議案ノ題目
- 七 議題ト爲リタル動議及動議者ノ氏名
- 八 決議ノ事項

九 表決及可否ノ數ヲ計算シタルトキハ其ノ數

十 議院ニ於テ必要ト認メタル事項

第四百十條 議員議事録ニ記載シタル事實ニ對シテ異議アルトキハ議長ハ書記官長ヲシテ答辯セシムヘシ議員其ノ答辯ニ服セス又ハ議長ノ處置ニ對シ不服ナルトキハ議長ハ討論ヲ用キスシテ議院ノ決ヲ採ルヘシ

第四百十一條 議事録ハ議長又ハ當日ノ會議ヲ整理シタル副議長若ハ假議長及書記官長又ハ其ノ代理タル書記官之ニ署名スヘシ

第二節 速記録

第四百十二條 議事速記録ハ議事日程議案議事投票者氏名及諸般ノ報告其ノ他必要ナル事項ヲ掲載ス

議事ハ速記法ニ依リ速記ス

第四百十三條 議員其ノ演說ノ參考トシテ簡單ナル文書ヲ速記録ニ掲載セムトスルトキハ議長ノ許可ヲ請フヘシ

第四百十四條 議院法第八十七條ニ依リ議長取消ヲ命シタル發言ハ速記録

ニ記載セス

七二

第四百四十五條 演說シタル議員ハ速記録配付ノ當日午後七時迄ニ訂正ヲ求ムルコトヲ得但シ訂正ハ字句ニ止マリ演說ノ趣旨ヲ變更スルコトヲ得ス速記録ノ訂正ニ對シ異議ヲ申立ツル者アルトキハ議長ハ贊成者アルヲ待チ討論ヲ用キスシテ議院ノ決ヲ採ルヘシ

第九章 質問

第四百四十六條 議員政府ニ對スル質問ニ付國務大臣ノ答辯其ノ要領ヲ得スト認ムルトキハ議場ニ出席ヲ求メ更ニ精細ノ質問ヲ爲スコトヲ得

第四百四十七條 質問ニ對スル答辯若ハ答辯ヲ爲ササル理由ニ付動議ヲ提出スルモノアリ三十人以上ノ贊成アルトキハ之ヲ議題ト爲スコトヲ得

第十章 上奏建議及議案ノ奏上

第四百四十八條 議院上奏シ又ハ勅語及勅旨ニ對シ奉答ノ敬禮ヲ表セムトスルトキハ議長ハ宮内大臣ニ依リ謁見ヲ請ヒ勅許ヲ經テ後參内スヘシ

第四百四十九條 議院ノ建議書ハ議長ヨリ内閣總理大臣ニ呈出スヘシ

第四百五十條 議案ヲ奏上スル場合ハ内閣總理大臣ヲ經由スヘシ

第十一章 請願

第四百五十一條 議院ハ請願者ノ住所職業年齢ヲ記シ各自署名捺印シタル請願書ニ非サレハ受理セス請願者自ラ署名スルコト能ハス他人ヲシテ代書セシムルトキハ代書シタル人其ノ由ヲ附記シ之ニ署名捺印スヘシ

第四百五十二條 法人ノ請願書ハ代表者之ニ署名シ法人ノ印章ヲ捺スヘシ

第四百五十三條 請願書ハ普通ノ邦文ヲ用ウヘシ若外國語ヲ用キサルヲ得サルトキハ之ニ註解ヲ附スヘシ

第四百五十四條 請願ヲ紹介スル議員ハ請願書ノ表紙ニ紹介議員某ト書スヘシ

第四百五十五條 請願委員ハ請願呈出ノ順序ニ依リ之ヲ審査スヘシ

第四百五十六條 議員簡單ナル説明書ヲ以テ一ノ請願ニ對シ至急ノ審査ヲ議

院ニ請求スルトキハ議長ハ討論ヲ用キスシテ議院ノ決ヲ採リ時日ヲ限り請願委員ニ付託スヘシ

衆議院規則(質問、上奏建議及議案ノ奏上、請願)

七三



第七十四  
第百五十七條

請願文書表ニハ請願ノ趣旨呈出ノ年月日請願者ノ住所職業氏名紹介議員ノ氏名ヲ記スヘシ

請願者數名アルトキハ請願者某外幾名ト記スヘシ

第百五十八條 請願文書表ハ議長之ヲ印刷セシメテ每週一回議員ニ配付スヘシ

請願書ハ議院ノ決議ニ依ルニ非サレハ印刷配付セス

第百五十九條

請願委員ハ審査ノ結果ニ從ヒ左ノ區別ヲ爲スヘシ

一 議院ノ會議ニ付スヘシトスルモノ

二 議院ノ會議ニ付スルヲ要セストスルモノ

第百六十條

請願委員ハ議院ノ會議ニ付スヘシトスルノ請願ニ付テハ意見書案ヲ附シタル特別ノ報告ヲ爲スヘシ

前項ノ請願中法律ノ制定ニ關スル請願ハ法律案ヲ具シテ報告スルコトヲ

得此ノ場合ニ於テハ請願委員長ヲ以テ提出者トス

第百六十一條

請願委員ハ議院ノ會議ニ付スルヲ要セストスルノ請願ニ付

テハ其ノ大要ヲ記シタル特種ノ報告ヲ爲スヘシ

前項ノ報告ニ係ル請願ニ對シ一週間内ニ議員ヨリ會議ニ付スルノ要求ヲ

爲ス者ナキトキハ委員會ノ決議ヲ以テ確定トス

第百六十二條

請願書ハ會議ニ付スルモ之ヲ朗讀セス但シ議員朗讀ヲ要求スル者アルトキハ議長ハ討論ヲ用キスシテ議院ノ決ヲ採ルヘシ

第十二章 請暇及辭職

第一節 請暇

第百六十三條

議員事故ノ爲ニ數日間議院ニ出席スルコト能ハサルトキハ

其ノ理由ヲ具ヘ日數ヲ定メテ豫メ請暇書ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ公務又

ハ疾病若ハ一時已ムヲ得サル事故アリテ議院ニ出席スルコトヲ得サルト

キハ其ノ理由ヲ具ヘ闕席届書ヲ差出スヘシ

第百六十四條

請暇ノ許可ヲ得議院所在ノ地ヲ離ルル者ハ其ノ出發及歸著ノ時ニ於テ議長ニ届出ヘシ

第百六十五條

議員請暇ノ許可ヲ得タル日限ニ至リ事故ニ由リ仍議院ニ出

衆議院規則(請暇及辭職)

席スルコトヲ得サルトキハ其ノ理由ヲ具ヘ日數ヲ定メテ更ニ請暇書ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ但シ臨時事變ノ爲ニ此ノ手續ヲ爲ス能ハサルトキハ後日其ノ理由ヲ申告シ承認ヲ受クヘシ  
第百六十六條 請暇ノ許可ヲ得タル議員其ノ請暇ノ期間内ニ議院ニ出席スルトキハ請暇許可ノ效ヲ失フ

第二節 辭職

第百六十七條 議員辭職セムトスルトキハ辭表ヲ議長ニ差出スヘシ

第百六十八條 議長ハ辭表ヲ朗讀セシメ討論ヲ用キシテ其ノ許否ヲ議決セシムヘシ若閉會中ナルトキハ議長之ヲ處分スルコトヲ得

第百六十九條 辭表中不敬又ハ無禮ノ文辭アリト認ムルトキハ議長ハ朗讀ヲ禁止シテ其ノ要領ヲ議院ニ報告スルコトヲ得

第百七十條 前條ノ場合ニ於テハ議長ハ其ノ辭表ヲ懲罰委員ニ付シテ審査セシムルコトヲ得

第十三章 警察及秩序

第一節 警察

第百七十一條 議長ハ守衛及警察官吏ヲ指揮シテ議院内部ノ警察權ヲ施行ス

第百七十二條 守衛ハ議事堂内警察官吏ハ議事堂外ノ警察ヲ爲ス但シ議長ノ特ニ命シタル場合ニ於テハ警察官吏議事堂内ノ警察ヲ行フコトアルヘシ

第百七十三條 議院内部ノ防火點燈導水煖爐及衛生ニ關スル事項ハ守衛之ヲ監督ス

第百七十四條 議院内部ニ於テ禁錮以上ノ刑ニ該ル罪ノ現行犯人アルトキハ守衛又ハ警察官吏ハ之ヲ逮捕シテ議長ノ命令ヲ請フヘシ但シ議場ニ於テハ議長ノ命令ヲ待タスシテ逮捕スルコトヲ得ス

第二節 議場内ノ秩序

第百七十五條 議場ニ入ルモノハ羽織袴「フロックコート」「モーニングコート」ノ外總テ略服ヲ著シ又ハ異様ノ服裝ヲ爲スヘカラス但シ無地又ハ之

衆議院規則(警察及秩序)

ニ準スヘキ折襟背廣服ノ着用ヲ妨ケス

七八

第七十六條 議場ニ入ルモノハ帽子外套傘杖ノ類ヲ着用携帯スヘカラス

第七十七條 議場内ニ於テ喫煙スヘカラス

第七十八條 議事中ハ參考ノ爲ニスルモノヲ除クノ外新聞紙及書籍等ヲ  
閱讀スルコトヲ得ス

第七十九條 何人モ議事中贊聲否聲ヲ發シ又ハ喧噪シテ他人ノ演說及朗  
讀ヲ妨グルコトヲ得ス

第八十條 何人モ議長ノ許可ナクシテ演壇ニ登ルコトヲ得ス

第八十一條 議長號鈴ヲ鳴ラストキハ何人モ總テ沈黙スヘシ

第八十二條 散會ニ際シ議員ハ議長退席ノ後ニ非サレハ退席スルコトヲ  
得ス

第八十三條 凡ツ秩序ノ問題ハ議長之ヲ決ス但シ議長ハ議院ニ諮ヒ之ヲ  
決スルコトヲ得

#### 第十四章 傍聽

第八十四條 傍聽席ヲ分テ皇族席外國交際官席貴族院議員席官吏席公衆  
席及新聞記者席トス

第八十五條 外國交際官ノ傍聽ヲ求ムル者アルトキハ外務省ノ照會ニ依  
リ書記官長ハ議長ノ指揮ヲ受ケ其ノ員數ヲ限り傍聽券ヲ該省ニ送付スヘ  
シ

第八十六條 官吏ノ傍聽ヲ求ムル者アルトキハ所屬官廳ノ照會ニ依リ書  
記官長ハ議長ノ指揮ヲ受ケ其ノ員數ヲ限り傍聽券ヲ其ノ官廳ニ送付スヘ  
シ

第八十七條 公衆ノ傍聽ヲ求ムル者ハ議員ノ紹介ニ依ルヘシ  
書記官長ハ議長ノ指揮ヲ受ケ豫メ公衆傍聽券ノ員數ヲ定メ之ヲ各議員ニ  
配付ス

第八十八條 新聞社及通信社ノ爲ニ一會期ニ通スル傍聽章ヲ交付ス  
前項傍聽章ノ員數ハ每會期ノ始ニ於テ書記官長ハ議長ノ指揮ヲ受ケ之ヲ  
定ム

第八十九條 議事開始ノ後一時間ヲ經過シ仍傍聽席ニ空位アリテ議員ノ紹介アルトキハ書記官長ハ議長ノ指揮ヲ受ケ傍聽券ヲ交付スルコトヲ得  
第九十條 議員傍聽人ヲ紹介スルトキハ傍聽人紹介人トモ其ノ氏名ヲ各傍聽券ニ記入スヘシ

第九十一條 議長必要ト認ムルトキハ守衛又ハ警察官吏ヲシテ傍聽人ノ身體搜查ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十二條 戎器兇器ヲ携持シタル者酩酊シタル者十二歳未滿ノ者其ノ他議長ニ於テ取締上必要アリト認ムル者ハ傍聽券ヲ有スト雖傍聽席ニ入ルコトヲ許サス

第九十三條 議長ニ於テ取締上必要アリト認ムルトキハ傍聽人ノ員數ヲ制限スルコトヲ得

第九十四條 傍聽人ハ傍聽券又ハ傍聽章ヲ守衛ニ示シ其ノ指示スル所ノ席ニ著クヘシ

第九十五條 凡ソ傍聽ニ席在ル者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 羽織若ハ袴又ハ洋服ヲ著スヘシ
  - 二 帽子又ハ外套ヲ著スヘカラス
  - 三 傘杖鞆包物ノ類ヲ携帶スヘカラス
  - 四 飲食又ハ喫煙スヘカラス
  - 五 議員ノ言論ニ對シ可否ヲ表スヘカラス
  - 六 喧擾ニ涉リ議事ヲ妨害スヘカラス
- 第九十六條 何等ノ事由アルモ傍聽人ハ議場ニ入ルコトヲ得ス
- 第九十七條 祕密會議ヲ開クノ決議アリタルトキ又ハ傍聽席騷擾ナルニ由リ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルトキハ議長ハ守衛ヲシテ其ノ命令ヲ執行セシムヘシ

第十五章 懲罰

第九十八條 會議ニ於テ懲罰事犯アルトキハ議長ハ會議ヲ中止シ又ハ事犯者ヲ退場セシムルコトヲ得

第九十九條 委員會ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長ハ委員會ヲ中止ス

ルコトヲ得

八二

第二百條 部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ部長ノ處分ハ委員長ノ例ニ同シ  
第二百一條 會議委員會部ノ外議院内部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ議長ハ之ヲ懲罰委員ニ付スヘシ

第二百二條 議長委員長又ハ部長ニ於テ懲罰事犯ト認メサル事件ニ付テモ議員ハ議院法第九十八條ニ依リ懲罰ノ動議ヲ議院ニ提出スルノ權ヲ失ハス

第二百三條 懲罰ノ動議ヲ提出セラレタルトキハ直ニ之ヲ會議ニ付スヘシ散會後提出セラレタルトキハ最近ノ會議ニ於テ之ヲ議題ト爲スヘシ

第二百四條 議院法第九十八條第一項ノ場合ニ於テハ議長ハ討論ヲ用キスシテ議院ノ決ヲ採リ之ヲ懲罰委員ニ付スヘシ

第二百五條 議長ノ制止又ハ取消ノ命ニ從ハサル者ハ議長ハ議院法第八十七條ニ依リ之ヲ處スルノ外仍懲罰事犯トシテ懲罰委員ニ付スルコトヲ得  
第二百六條 懲罰事犯ノ議事ハ祕密會議ヲ以テス

第二百七條 議員ハ自己ノ懲罰事犯ノ會議ニ列席スルコトヲ得ス但シ議長ノ許可ヲ經テ自ラ辯明シ又ハ他ノ議員ヲシテ代リテ辯明セシムルコトヲ得

第二百八條 懲罰委員ハ議長ヲ經由シテ本人及關係議員ヲ召喚訊問スルコトヲ得

第二百九條 公開議場ニ於テ謝辭ヲ表セシムトスルトキハ懲罰委員ハ謝辭ノ要領ヲ起草シ其ノ報告ト共ニ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第二百十條 出席停止ハ三十日ヲ超ユルコトヲ得ス  
數箇ノ懲罰事犯併發シタル場合ニ於テモ出席停止ハ前項ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第二百十一條 出席ヲ停止セラレタル者委員ナルトキハ其ノ任ハ解ケタルモノトス

第二百十二條 出席ヲ停止セラレタル者其ノ停止期間内ニ議場ニ入ルトキハ議長ハ直ニ退去ヲ命シ其ノ命ニ從ハサルトキハ必要ノ處分ヲ爲シ更ニ

懲罰委員ニ付スヘシ

第二百十三條 凡ソ議院ノ騷擾ヲ醸シ又ハ議院ノ體面ヲ汚スヘキ所行ニシテ其ノ情重キ者ハ出席ヲ停止シ又ハ除名スルコトヲ得

第二百十四條 議院懲罰ヲ議決シタルトキハ議長ハ公開議場ニ於テ之ヲ宣告ス

第二百十五條 議長ハ懲罰事犯ト認ムル所ノ言論ノ一部又ハ全部ヲ公布スルコトヲ禁スルコトヲ得

議院ニ於テ懲罰事犯ナシト議決シタルトキハ議長ノ命令ハ自ラ消滅ス

#### 第十六章 貴族院ニ對スル關係

第二百十六條 議案ヲ貴族院ニ移ストキハ議長ハ書記官長ヲシテ之ヲ貴族院議長ニ傳達セシム

第二百十七條 貴族院ヨリ議案ヲ受取リタルトキハ議長ハ之ヲ議院ニ報告スヘシ

第二百十八條 協議委員ノ選舉ハ第六十四條ノ例ニ依ル

第二百十九條 議院法第五十五條ニ依リ貴族院ヨリ回付シタル修正案ヲ議

シ及協議會ノ報告ヲ議スルニハ三讀會ヲ經ルヲ要セス

第二百二十條 協議會ニ於ケル衆議院ノ委員ハ其ノ報告委員ヲ互選スルコトヲ得

第二百二十一條 協議委員ノ數協議會ノ定數及決議ノ方法竝協議會議長ノ

權限ハ議院法第六十一條ニ依リ委員ヲ派シ兩院協議シテ之ヲ定ムヘシ

#### 第十七章 補則

第二百二十二條 議院規則ノ疑義ハ議長之ヲ決ス但シ議長ハ議院ニ諮ヒ之ヲ決スルコトヲ得

#### 附則

明治三十九年三月二十二日議決法律ノ制定ニ關スル請願取扱規則及明治四十二年十二月二十五日議決投票ニ關スル規則ハ之ヲ廢止ス

○兩院協議會規程

(明治二十四年二月二十八日貴族院議決同年三月二日衆議院議決)

第一條 甲議院ニ於テ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ其ノ件名及理由ヲ記シ文書ヲ以テ之ヲ乙議院ニ通知スヘシ

第二條 協議委員ノ數ハ協議會ヲ求ムル議院之ヲ定ム

第三條 協議會初會ノ日時ハ兩院議長ノ協議ニ依テ之ヲ定メ爾後會議ノ日時ハ協議會之ヲ定ム

第四條 協議會ハ協議室ニ於テ之ヲ開ク

第五條 協議會ハ兩院ノ委員各三分ノ二以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開クコトヲ得ス

第六條 甲議院ノ出席委員乙議院ノ出席委員ヨリ多キトキハ表決ノ際抽籤ヲ以テ其ノ超過シタル數ノ委員ヲ減除ス但議長ハ其ノ數ニ算入セス

第七條 協議會ノ議長ハ會議ヲ整理シ秩序ヲ保持ス

第八條 協議會ノ議長自ラ討議ニ與ラントスルトキハ其ノ院ノ副議長ヲシ

テ代テ議長席ニ著カシムヘシ

第九條 協議委員ハ協議會ニ於テ同一ノ事件ニ付幾回タリトモ發言スルコトヲ得

第十條 協議會ニ於ケル動議ハ一名以上ノ贊成ニ依リ議題トナスヘシ

第十一條 協議會ノ議事ハ出席委員ノ過半數ヲ以テ決ス

第十二條 兩院ノ協議委員ハ各副議長一名ヲ選ヒ議長故障アルトキハ之ヲ代理セシム

議長副議長共ニ故障アルトキハ其ノ院ノ委員中ヨリ假議長ヲ選定シ議長ノ職務ヲ行ハシム

第十三條 協議會ノ議事録及議事速記録ハ各二部ヲ作り協議會ノ議長之ニ檢印スヘシ

第十四條 協議會ノ議事録及其ノ他ノ文書ハ各院ノ書記官ヲシテ之ヲ掌ラシム

第十五條 協議會ノ議事録又ハ議事速記録ノ記事ニ對シ異議アルトキハ協

議會之ヲ決ス

第十六條 協議會ニ於テ懲罰事犯アルトキハ協議會ノ議長ハ之ヲ其ノ委員所屬議院ノ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ



○兩院協議會規程取扱方ニ關スル件

(明治三十六年五月兩院議長協定)

- 一 兩院協議會規程第六條ノ取扱ヲ左ノ通定ムルコト
- 一 兩院出席委員ノ數ヲ對比スルニ當リテハ當日ノ議長ヲモ委員數中ニ加ヘテ計算スルコト
- 二 減除スヘキ委員ヲ定ムルニ當リテハ當日ノ議長ヲ除キテ抽籤ヲ行フコト
- 一 成案ニ關シ新ナル意見ノ提出ナキカ又ハ之ヲ否決シタルトキハ先ツ協議會ヲ求メタル議院ノ議決案ニ付採決シ其結果否決セラレタルトキハ協議會ノ請求ニ應シタル議院ノ議決案ニ付採決スルコト
- 一 兩院協議會ノ議事ハ兩院議決ノ一致セサル事項及當然影響ヲ受クヘキ事項ノ外ニ涉ルヲ得サルコト

○帝國議會議長副議長議員歲費及旅費支給

規則

明治二十三年勅令第二百六十三號 ○改正同二十四年第一七九號、同三〇年第三三五號、大正三年第一八六號、同年第二六二號、同六年第二八號、同九年第二一七號、昭和五年第五八號、同年第一一九號、同十六年第三三六號、同十八年第六八七號、同二十一年第一六九號

第一條 帝國議會議長副議長及議員ノ歲費ハ毎年七月ヨリ翌年六月ニ至ル十二箇月ヲ以テ一歲トシ計算ス

前項歲費年度中召集セラレタルニ拘ラス全ク之ニ應セサル者ニハ歲費ヲ支給セス

第二條 議長副議長及議員ノ歲費ハ其ノ前六箇月分ヲ帝國議會通常會開會ノ後三十日以内ニ其ノ後六箇月分ヲ閉會ノ後七日以内ニ支給ス  
七月以後臨時議會又ハ憲法第四十五條ノ議會開會ノ場合ニ於テハ其ノ閉會ノ當月マテノ分ノ歲費ヲ閉會ノ後七日以内ニ支給ス六月以前開會シ七月以後ニ於テ閉會シタルトキ亦同シ

帝國議會議長副議長議員歲費及旅費支給規則

六月以前憲法第四十五條ノ議會開會ノ場合ニ於テハ六月マテノ分ノ歳費ヲ閉會ノ後七日以内ニ支給ス

歳費ハ前三項ノ規定ニ拘ラズ本人ノ希望ニ依リ十二分シテ毎月下旬之ヲ支給スルコトヲ得

第三條 議長副議長ノ歳費ハ其ノ勅任セラレタル當月分ヨリ支給ス

議長副議長ニ勅任セラレタル議員ノ歳費ハ其ノ勅任セラレタル前月分マテ支給ス

第四條 貴族院勅任議員ノ歳費ハ其ノ勅任セラレタル當月分ヨリ支給ス

第五條 議長副議長及議員任期滿了、退職、辭職、除名ノ場合又ハ召集セ

ラルルコトナクシテ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ當月分マテヲ支給ス但シ議院法第十五條ノ規定ニ依リ議長副議長其ノ職務ヲ繼續スル場合ニ於テハ本令ノ適用ニ付テハ仍任期中ニ在ルモノト看做ス

第六條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ其ノ議長副議長及議員ノ歳費ハ解散ヲ命セラレタル當月分マテヲ支給ス

第七條 衆議院解散ヲ命セラレタル後選舉セラレタル議員及補闕議員ノ歳

費ハ其ノ選舉セラレタル當月分ヨリ支給ス

第八條 衆議院ノ議員貴族院ノ議員トナリタルトキ其ノ他如何ナル場合ヲ問ハス歳費ハ同一人ニ對シ重複支給セス

第九條 官吏ニシテ議員タル者官吏ヲ罷メタルトキハ其ノ當月分ヨリ議員ニシテ官吏ニ任セラレタル者仍議員タルトキハ其ノ當月分マテヲ支給ス

第十條 議長副議長及議員ノ旅費ハ別表定ムル所ニ從ヒ之ヲ支給ス官吏ニシテ議員タル者亦同シ

上京旅費ニ歳費ノ前半額ト歸郷旅費ハ歳費ノ後半額ト同時ニ之ヲ支給ス臨時議會又ハ憲法第四十五條ノ議會開會ノ場合ニ於テハ旅費ハ其ノ都度之ヲ支給ス

議長副議長及議員召集ニ應シタル後衆議院解散ヲ命セラレタルトキ又ノ任期滿了シタルトキト雖歸郷旅費ヲ支給ス其ノ死亡ノ場合ニ於テハ之ニ相當スル金額ヲ其ノ遺族ニ支給ス

第十一條 旅費ハ當選區ノ何地ニ在ルヲ問ハス其ノ住居地ヨリ直路ノ路程ヲ計算シテ之ヲ支給ス

第十二條 議院ヲ距ル十二料以内ノ地ニ住居スル者ハ何地ノ議員タルヲ問ハス旅費ヲ支給セス

第十三條 日當ハ鐵道旅行ニ在リテハ四百料、水路旅行ニ在リテハ二百料、陸路旅行ニ在リテハ五十料ニ付一日ノ割合ヲ以テ直路ノ路程ニ應シ通算シタル日數ニ依リ之ヲ支給ス但シ一日未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨ツ

第十四條 召集ニ應セサル議員ニハ事故ノ如何ヲ問ハス旅費ヲ支給セス  
(別表)

旅 費 表	
鐵道 賃 及 船 賃	車馬賃 一料ニ付 日當 一日ニ付
上級運賃(通行税及解船賃ヲ含ム)	三 十 錢
鐵道百料以上ノ旅行ニシテ急行料金を徴スル線路ニ依ルモノニ在リテハ第二種急行料金を徴スル線路ニ依ルモノニ在リテハ第一種急行料金を支給ス	二 十 四 圓

○帝國議會各議院議長副議長及議員

國有鐵道無賃乘車規則

(大正十四年勅令第五十七號  
改正昭和五年第六六號  
同一七年第二四七號)

第一條 帝國議會ノ各議院ノ議長副議長及議員議院法第十九條ノ二ノ規定ニ依リ國有鐵道ニ無賃ニテ乘車セムトスル場合ニハ鐵道大臣發行ノ國有鐵道無賃乘車證ヲ携帯スヘシ

第二條 議長副議長及議員ノ無賃乘車證ハ鐵道省所管ノ鐵道線路竝下關門司港間、宮島口宮島間及宇野高松間連絡航路ニ之ヲ使用スルコトヲ得但シ特別急行列車ニ乘車シ又ハ列車寢臺ヲ使用セムトスルトキハ各所定ノ料金ヲ支拂フモノトス

第三條 無賃乘車證ノ使用ニ付テハ本規則ニ定ムルモノノ外無賃乘車證ニ關シ鐵道大臣ノ定ムル規則竝一般旅客運送ニ關スル法令及規則ニ從フヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和五年勅令第六六號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和一七年勅令第二四七號)

本令ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○衆議院調査會規約

(昭和十六年六月六日議院打合會決定) (改正) (同十七年一月一日) (同十八年一月) (同二十年九月)

第一條 帝國議會議事準備ノ爲諸般ノ調査研究ヲ爲シ併セテ會員相互ノ親

睦ヲ圖ル目的ヲ以テ衆議院調査會ヲ設ク

第二條 本會ハ衆議院議員全員ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 本會ニ世話人若干名ヲ置ク

世話人ハ合議ニ依リ會務ヲ處理ス

第四條 本會ニ左ノ部ヲ設ケ會員ハ各部ノ調査ヲ分擔ス

第一部 內閣

第二部 外務省

第三部 內務省

第四部 大藏省

第五部 司法省

第六部 文部省

衆議院調査會規約

第七部 厚生省

第八部 農林省

第九部 商工省

第十部 運輸省

第五條 各部ニ主任一名幹事若干名ヲ置キ部員中ヨリ之ヲ互選ス  
主任ハ部ノ事務ヲ整理ス

主任故障アルトキハ幹事之ヲ代理ス

第六條 特別ノ事項ヲ調査スル爲特別委員會ヲ設クルコトヲ得

第七條 必要アルトキハ總會又ハ聯合部會ヲ開クコトヲ得

第八條 世話人、主任及幹事ノ任期ハ各一年トス但シ重任ヲ妨ケス

○衆議院調査會規約特例(昭和十七年七月三十一日  
議院協議會申合)

衆議院調査會規約第五條第一項ニ依ル主任及幹事ハ當分ノ間議長之ヲ委囑  
スルコト

○各派交渉會規程(昭和十六年十一月十二日  
各派交渉會決定)

第一條 各派交渉會ハ議長之ヲ招集シ議長ニ於テ必要ト認ムル事項ニ付協  
議ス

第二條 各派交渉會ハ議長、副議長及交渉團體タル各派ニ於テ其ノ役員中  
ヨリ選定セル議員ヲ以テ之ヲ組織ス其ノ總數及各派ノ員數ハ每會期各派  
交渉會ニ於テ之ヲ定ム

前項ノ交渉團體トハ院内ニ於テ二十五名以上ノ所屬議員ヲ有スル團體ヲ  
謂フ

第三條 各派交渉會ノ議事ハ議長之ヲ整理ス

第四條 議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス

議長、副議長共ニ故障アルトキハ書記官長議長ノ職務ヲ行フ

第五條 各派交渉會ハ各派ヨリ一名以上出席スルニ非サレハ之ヲ開クコト  
ヲ得ス

53723

2602  
10

第六條 各派交渉會ノ議事ハ全會一致ヲ以テ之ヲ決ス

第七條 各派交渉會ニ於テ決定セル事項ニ付テハ各派遵守ノ責ヲ負フ

第八條 所屬議員二十五名未滿ノ團體ノ代表者ハ各派交渉會ニ於テ其ノ議

事ヲ傍聽シ議長ノ許可ヲ得テ意見ヲ陳フルコトヲ得

第九條 第二條第一項及前條ニ定メタル者ノ外ハ議長ノ許可ヲ得ルニ非サ

レハ各派交渉會會議室ニ入ルコトヲ得ス

第十條 本規程ニ定ナキ事項ハ議長之ヲ決ス

生産



